# 足尾銅山を世界遺産へ

## ～世界遺産国内暫定一覧表への追記記載を目指して～

足尾銅山跡通洞坑（国史跡）

**10月号では、足尾銅山産業遺産の歴史的価値などについてお知らせしました。**
**今回は、昨年10月26日・27日に開催したシンポジウムの概要などについてお知らせします。**

### 世界遺産登録推進シンポジウム

#### 産業遺産見学会

**見学地**…通洞選鉱所および宇都野火薬庫跡（国史跡）

シンポジウムの一環として、10月26日に開催した産業遺産見学会には市内外から約30名が参加しました。所有者の古河機械金属株式会社足尾事業所の協力により、通常非公開の「通洞選鉱所」と「宇都野火薬庫跡（国史跡）」を見学しました。

産業遺産見学会（通洞選鉱所）

今回、初めて公開された通洞選鉱所は、坑内から採掘された鉱石をえり分けて、製錬所へ送る役割を担っていました。本山、小滝、通洞の主要坑口にはそれぞれ選鉱所がありましたが、大正10（1921）年までに通洞選鉱所に集約されました。最新鋭の設備が配備され、金属鉱山の選鉱所のモデルとして国内外で高く評価されました。

昭和48（1973）年の閉山とともに操業は停止されましたが、通洞選鉱所には、鉱石を鉄球で細かく砕き泥状にする「ボールミル」や銅鉱を泡の表面に付着させて回収する「浮選機」などの機械が現存しています。

宇都野火薬庫跡は、近代の採鉱技術に大きな影響を与えた火薬類の保管庫で、明治45（1912）年に完成しました。火薬類の保管庫やダイナマイト庫、雷管・導火線庫の4棟および、火薬の梱包作業所で構成されています。

当時の銃砲火薬類取締法に定められた仕様が忠実に反映され、平成20年3月に国史跡に指定されました。

産業遺産見学会には多くの問い合わせや申し込みがあり、非常に好評だったことから、平成25年度も継続して実施する予定です。見学会の場所・日時・申込方法などは「広報にっこう」などで改めてお知らせします。

宇都野火薬庫跡（国史跡）

#### 講演会

**講師**…本宮一男氏（横浜市立大学国際総合科学部教授）

**演題**…大正期の足尾町の姿～足尾銅山実習報文から～

**講演の内容**…旧帝国大学などの工学部学生による各鉱山への実習報文（実習報告）は、鉱業技術や鉱山経営の実態についてばかりではなく、当時の地域社会の姿を明らかにする重要な史料です。特に東京帝国大学の学生だった黒河内平治氏の「大正4年度足尾銅山報告」は、鉱山以外の町の生活についての情報や写真が豊富な実習報文です。

講演会の様子

この報告がなされた大正期は人口や銅産出量がピークに達し、まさに足尾の最盛期でした。

報文の内容を紹介すると、大正元（1912）年に足尾鉄道が開通したが、町内の運送手段としては軽便馬車鉄道が大いに利用され、銅山の従業員とその家族は無料で、一般町民は全域10銭均一で乗車していた、などと当時の交通事情が詳細に述べられています。

また、当時の教育については、古河私立足尾銅山尋常高等小学校の児童一人当たりの教育費は約7円で、東京における最高額の約9円と比較しても教育に対する費用を惜しまない姿勢がわかる。この小学校の美術や国語の学業成績が宇都宮師範付属小学校の学業成績と比較して勝っており、このことは教育費が高いということに起因する、と述べられています。

さらに当時の町の姿についても、坑夫の賃金支払日には、桐生、大間々、宇都宮、遠くは東京方面から商人が来て夜店が立ち並び、また興行が開かれるなど金融界も活況を呈し、旅館や料理店は繁忙を極める、とその盛況ぶりが述べられています。

足尾銅山の近代化産業遺産群は貴重な文化財としての価値があります。同時に、足尾銅山の発展に伴い形成された地域社会で展開したさまざまな文化も、足尾銅山の価値を示す重要な題材であると言えます。

軽便馬車鉄道（大正初期）

### 世界遺産登録を目指して

市は、今後も産業遺産の保存・活用を図るための文化財指定と足尾銅山の価値証明を目指し、さらに足尾銅山の世界遺産登録事業を推進していきますので、市民の皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

くわしくは
文化財課 世界遺産登録推進室
☎（30）1861